

令和6年 神奈川県議会 文教常任委員会にて意見発表いたしました。

◆小野寺慎一郎委員

私からは、本委員会で報告された事項並びに所管事項について、公明党県議団として意見を申し上げたいと思います。

まず、令和5年度神奈川県児童・生徒の問題行動・不登校等調査結果から、県立高等学校の中退者について、また、公立小・中・高等学校の児童・生徒の自殺の状況について質疑をさせていただきました。中退の理由としては、全日制、定時制とともに、学校や学業への不適応や就職なども含む進路変更がそれぞれ4割、合わせて8割を占めるということでありました。その詳細については、今回取り上げませんでしたが、各学校は十分、掌握をしているということだと思います。その詳細について、教育委員会として、各学校から情報収集の上、各校が共有して対策の一助とできるような工夫をしていただきたいというふうに思っています。とりわけ、学業でつまずきやすいクリエイティブスクールの生徒さん、また、言葉がネックとなって学業を諦めてしまう外国につながる生徒が多く在籍する定時制高校については、特段の配慮をお願いをしたいというふうに思います。また、様々な場面で力になってくれるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、そしてスクールキャリアカウンセラーという方々について存分に活躍していただくためにも、そうした職員の身分と待遇の改善にも取り組んでいただきたいと要望させていただきます。

次に、全国的に高止まりが続いている児童・生徒の自殺について、本県では、令和5年度に減少に転じていることに対し、教育委員会からは、かながわ子どもサポートドックの効果が現れているのではないかという御答弁がありました。令和5年度には、県内の公立高校の自殺者が21人と、これまで一番の数字が出てしまったということを考えると、その効果があったというふうにも考えられるわけですけれども、今後、減少傾向を持続させるためには、決して油断があってはならないというふうに思います。かながわ子どもサポートドックの取組を市町村でも展開し、教育相談体制が強化できるように、市町村への一層の支援に取り組んでいただくことを要望をいたします。

次に、ヤングケアラーに関する福祉子どもみらい局との連携について申し上げます。

ここでも、かながわ子どもサポートドックで獲得した情報を活用しているとのことありました。その情報に基づくプッシュ式面談をこれからも一層推進していただきたいと思います。また、県教育委員会として、県の福祉部局は言うまでもなく、市町村の福祉部局との連携も進めていただいているようあります。ヤングケアラーという課題は、児童・生徒と教職員双方への啓発が必要ですので、これもしっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。

そして、今回、質疑はしなかったところでありますけれども、障害者活躍推進

計画（素案）についても一言申し上げたいと思います。

障害者で教員免許を所持する人がまだまだ少ないという状況の中で、積極的に障害者の雇用に取り組む姿勢は、率直に評価をさせていただきたいというふうに思います。ただ、身体障害であればバリアフリーといった課題、あるいは、知的障害・精神障害に対しては十分なサポート体制が必要ということもありますので、そうしたことにもしっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。

以上、意見、要望を申し上げて、本委員会に付託された諸議案に賛成を表明します。